



FOR THE REAL CHAMPION
EVOLVING, JADA

眞のチャンピオン
のために

For the real champion



JADAは進化を続ける



「プレイ・トゥルー」

という言葉は日本では10年前には存在していなかった。

スポーツの価値を象徴する理念—“PLAY TRUE”

それは、公平、公正、フェアプレー、平等、勇気、克己心、敬意、チームワーク、共栄など、複合的なスポーツの価値を含む。

スポーツの本当の勝者とは何か
なぜスポーツに関わるのか
なぜ人はスポーツに感動し、感化されるのか
ユース世代・次世代にどのようなスポーツを享受してほしいのか
スポーツを通して何を達成しようとするのか、達成されるのか

オリンピズムの精神、スポーツの本質にある価値を考えるためのきっかけを作り、その種を撒くファシリテーターの役割を担うのが、JADAである。

JADAは、国内そして世界中でパートナーシップを組み、アンチ・ドーピング活動を展開している。複雑化する世界のアンチ・ドーピング活動と協働し、ベスト・プラクティスを生み出し、アジア地域のアンチ・ドーピング活動の発展のために貢献、共に発展する。

「強いものは美しい」

アジア初オリンピック金メダリストの織田幹雄氏は、こう述べた。

強いものが眞のチャンピオンとして美しくあるために、眞のエクセレンスが美しくあるために、JADAは進化を続け、アンチ・ドーピング活動を推進していく。

室伏広治(日本)

2004年アテネオリンピック、
2011年世界陸上競技選手権大会
金メダリスト(ハンマー投げ)

VISION

ドーピングの無い、正々堂々と戦うチャンピオンのために Mission possible - JADA

JADAのミッションは、ドーピングの無いスポーツを実現し、正々堂々と戦うアスリートを護り、スポーツの価値とその精神を推進していくことです。

JADA創立から10年が経ちましたが、その間に我が国では「プレイ・トゥルー」を標榜したドーピング防止活動への社会的認知度や重要性が徐々にたかまるとともに、その活動を通してスポーツ本来の意義や精神について語られる機会が着実に増しています。

世界のトップアスリートの中には、「最先端」の薬物を使用している事例が未だ絶えません。青少年に関わる社会的問題の一部には、ドーピングが密接に関連している場合もあります。これらの現状を受けて、ドーピング撲滅への活動は各国政府、スポーツに関わる団体の共通の責務

として、世界規模のさらに大きな活動へと発展しています。

JADAはこうした世界の動きと協調して、国内の各加盟団体や競技者、競技者支援要員、関係諸団体の皆様と緊密に連携し、ドーピング防止活動に取り組んできました。現在、特に若い世代に向け、スポーツの価値や勝者について本来の意味を問うような教育・啓発活動を重視したプログラムを展開しています。さらに、日本国内のみならず、アジア地域のドーピング防止活動を牽引すべく率先して進めていきたいと思います。

ドーピングの無い、正々堂々と戦う真のチャンピオンのために、我われは次の10年、そしてその先に向かって歩んでいく所存です。



鈴木秀典

JADA会長



田辺陽子さん

1992, 96年
オリンピック銀メダリスト(柔道)
2006-09 WADAアスリート委員会
JADA理事
JADAアスリート委員会 委員長

スポーツをしていると
楽しくて仕方がないし、
スポーツは自分の中での教科書として
色々なことを教えてくれる。

人間の幅を 拡げるために

プレイ・トゥルーの精神について考え、語ることで、
アスリートとしての責任も芽生えるし、
人間の幅が拡がってくる。
その精神は、相手に対して礼をして
柔道を始めるのと同じことであり、
全ての人が関わる**正しい道**を選べるもの。



YES TO SPORT

YES TO SPORT

正々堂々と、スポーツ。

アンチ・ドーピング活動への関わりを通して
スポーツの本質を説き、スポーツに向き合い
自分でその意味を消化していくと、
自分の中に軸を持つことができた。



本物を
追求する

スポーツで 本物に近づくために

アンチ・ドーピングとは、
本来のスポーツに戻る
きっかけを作るもの。
本物の強さを追求し
目指すことで本物の強さを得られる。

それが**本当の勝利**だと思います。

相手に対する礼

かっこよく
スポーツ



スポーツ選手としてよりかっこよく、
より逞しくスポーツライフを送るための活動が、
アンチ・ドーピング活動。



鈴木大地さん

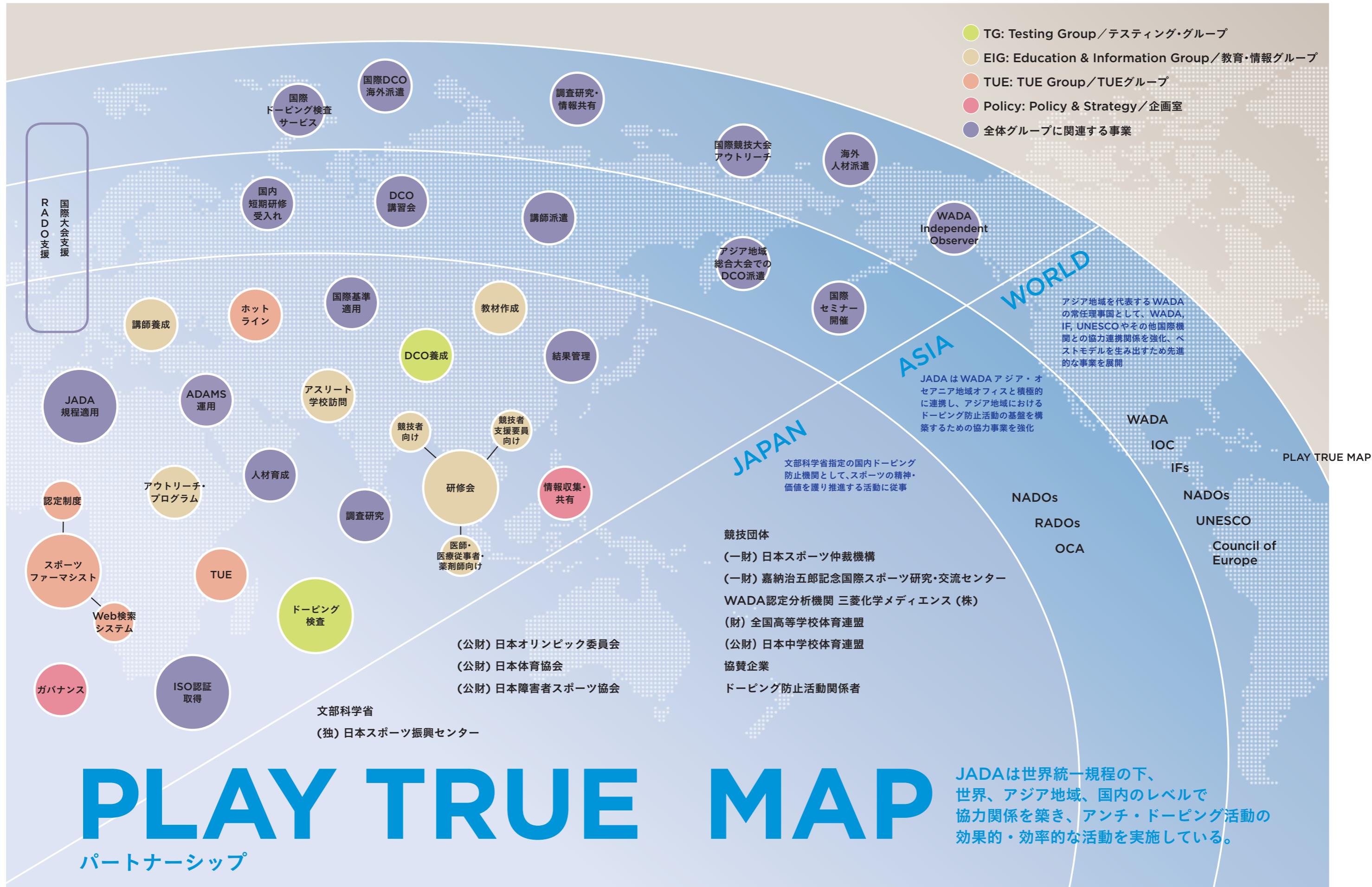
1988 ソウル・オリンピック
金メダリスト(背泳ぎ)
WADA & JADAアスリート委員
日本水泳連盟常務理事

ウソは通じない

スポーツは
自分の強さが結果に出る
ものであるし、
アンチ・ドーピングについて考え、
スポーツについて掘り下げて
考えて行動していくと、
より強くなると思う。

写真:フォート・キシモト

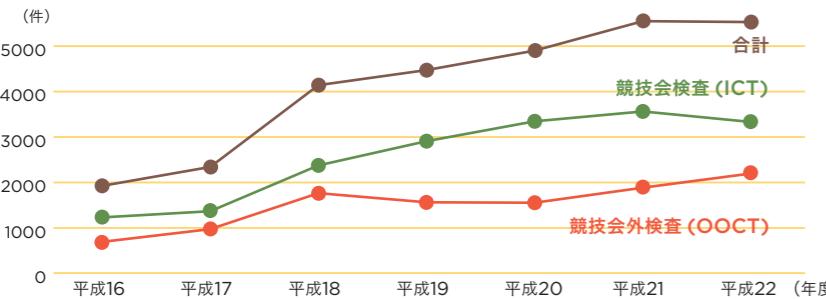
アンチ・ドーピングへの関わり: JADAアスリート委員



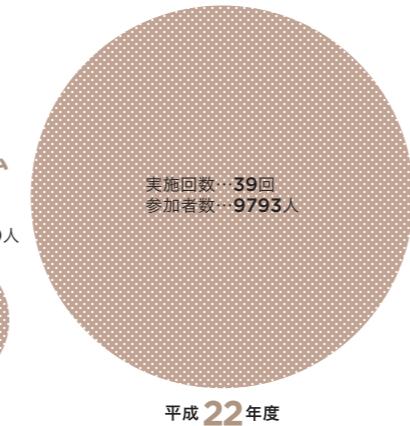
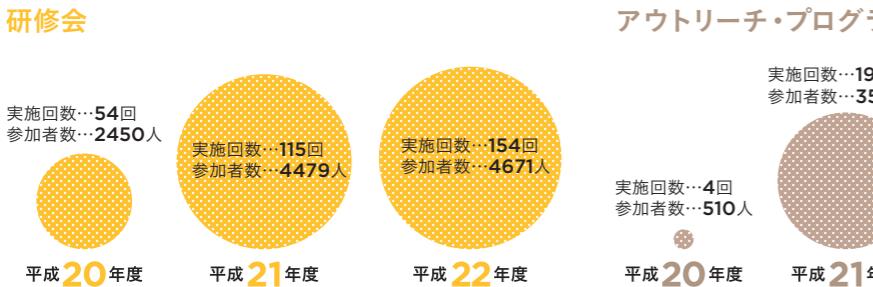
JADAの活動業績

JADA ACHIEVEMENTS

■ ドーピング検査活動



■ 教育・啓発プログラムの実施回数と参加人数

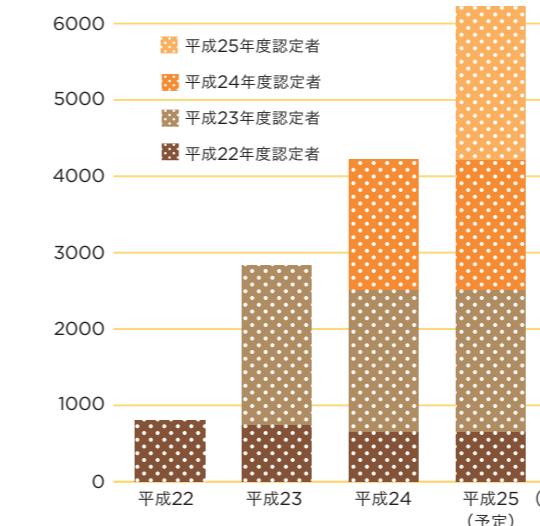


■ 海外派遣: アウトリーチ、国際DCO派遣、Independent Observer-実績例



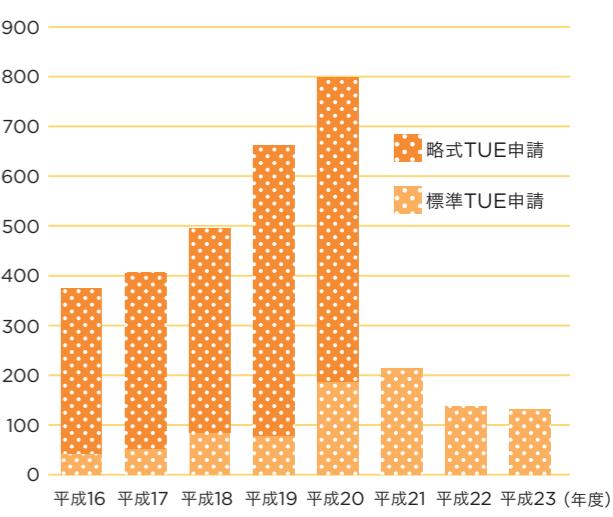
■ 公認スポーツファーマシスト認定制度

全国の認定スポーツファーマシストの人数



■ TUE申請数

平成21年以降は、標準TUEのみ実施



JADA
ACHIEVEMENTS

■ 海外短期受け入れ: DCO育成、国際セミナー

アジア地域におけるドーピング防止国際セミナー開催(2009年~)



世界の動きと連動した 日本国内の アンチ・ドーピング活動

MILESTONES

1999

スポーツにおけるドーピングの
防止に関する世界会議
(World Conference on
Doping in Sport) 日本参画

1999.11.10 WADA設立
—スポーツ・ムーブメントと
政府の総意、日本国常任理事に



2001
JADA設立

日本のドーピング防止体制が整備



2002
WADAモントリオール・
オフィス開設

2003

世界ドーピング防止規程
(World Anti-Doping Code) 採択
第2回World Conference
on Doping in Sport にて
世界で統一の規程の下、調和された体制が整備



「スポーツにおけるアンチ・ドーピングに
関するコペンハーゲン宣言」
—ドラフティング・グループメンバーとして参画



2004
2004

日本のドーピング防止体制が整備

2004 アテネ
WADA
アウトリーチ・
チーム&
Independent
Observer
として参加
—Codeが初適用



2004

「金メダルよりも重要なことがある」
—室伏広治選手(ハンマー投げ)がアテネ・オリンピックにて金メダルに繰り上げ。WADAへの敬意も
表すと共に、眞のアスリートを象徴する言葉を残す。
“眞実の母 オリンピアよ あなたの子供達が競技で勝利を勝ち得た時 永遠の栄誉(黄金)をあたえよ それを証明できるのは 真実の母—オリンピア
古代詩人ピンドロス 29.8.2004 室伏広治”

2000 シドニー
—WADA Independent
Observer開始

1992

バルセロナ

1988 ソウル

2005

ユネスコ国際規約採択
「スポーツにおける
ドーピングの防止に関する国際規約」
アンチ・ドーピングにおける政府の責務を明記
—ドラフティング・グループ副議長として参画
International Convention
against Doping in Sport



世界陸上2007大阪
—日本で初の血液検査

2010

ドーピング検査車両始動
ドーピング検査や教育啓発活動に
活用することができる
ドーピング検査車両が完成



世界陸上2011テグにて
1,849血液検体を採取



2011

スポーツ基本法成立
「ドーピングの防止の重要性」に
ついての言及、クリーンで公正な
スポーツの実現を目指す

2006

日本国政府ユネスコ国際規約締結



2009

ISO認証取得

「公認スポーツファーマシスト
認定制度」開始
JADAが日本薬剤師会と
共同し世界に先駆けて創設



2013

第4回 World Conference
on Doping in Sport
(ヨハネスブルク) 開催、
2009Code改定予定

CONTINUED
2014 ソチ

MILESTONES



「真のチャンピオン」の アンバサダーとして

JADAは、真のアスリートが真のチャンピオンであるために、
スポーツの価値を護り、スポーツの精神がより強固に社会に根付き、
発展していくためのファシリテーターとして進化を続け
アンチ・ドーピング活動を推進していく。

FINANCIAL REPORT

収支決算報告

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

(単位:円)

科目	一般会計	スポーツ振興くじ 助成金特別会計	委嘱事業特別会計	内部取引消去	合計
I 一般正味財産増減の部					
経常増減の部					
経常収益	205,949,576	3,147,315	99,631,995	△8,209,191	300,519,695
経常費用	193,327,260	3,147,375	99,631,995	△8,209,191	287,897,439
当期経常増減額	12,622,316	△60	0	0	12,622,256
経常外増減の部					
経常外収益	0	0	0	0	0
経常外費用	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	12,622,316	△60	0	0	12,622,256
法人税、住民税及び事業税	70,000	0	0	0	70,000
当期一般正味財産増減額	12,552,316	△60	0	0	12,552,256
一般正味財産期首残高	40,287,725	60	0	0	40,287,785
一般正味財産期末残高	52,840,041	0	0	0	52,840,041
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額	12,803,700	0	0	0	12,803,700
指定正味財産期首残高	51,000,000	0	0	0	51,000,000
指定正味財産期末残高	63,803,700	0	0	0	63,803,700
III 正味財産期末残高					
	116,643,741	0	0	0	116,643,741

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

(単位:円)

科目	一般会計	スポーツ振興くじ 助成金特別会計	委嘱事業特別会計	JSAD特別会計	内部取引消去	合計
I 一般正味財産増減の部						
経常増減の部						
経常収益	163,025,570	86,513,574	234,715,419	4,103,419	△21,177,557	467,180,425
経常費用	200,628,015	86,513,574	234,715,419	4,103,419	△21,177,557	504,782,870
当期経常増減額	△37,602,445	0	0	0	0	△37,602,445
経常外増減の部						
経常外収益	0	0	0	0	0	0
経常外費用	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△37,602,445	0	0	0	0	△37,602,445
法人税、住民税及び事業税	70,000	0	0	0	0	70,000
当期一般正味財産増減額	△37,672,445	0	0	0	0	△37,672,445
一般正味財産期首残高	72,380,885	0	0	0	0	72,380,885
一般正味財産期末残高	34,708,440	0	0	0	0	34,708,440
II 指定正味財産増減の部						
当期指定正味財産増減額	△5,241,600	0	0	0	0	△5,241,600
指定正味財産期首残高	72,558,600	0	0	0	0	72,558,600
指定正味財産期末残高	67,317,000	0	0	0	0	67,317,000
III 正味財産期末残高						
	102,025,440	0	0	0	0	102,025,440

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

(単位:円)

科目	一般会計	スポーツ振興くじ 助成金特別会計	委嘱事業特別会計	JSAD特別会計	内部取引消去	合計
I 一般正味財産増減の部						
経常増減の部						
経常収益	682,415,596	180,633,317	73,188,840	4,080,650	△109,956,514	830,361,889
経常費用	687,474,737	110,168,092	73,188,840	4,080,650	△109,956,514	764,955,805
当期経常増減額	△5,059,141	70,465,225	0	0	0	65,406,084
経常外増減の部						
経常外収益	0	0	0	0	0	0
経常外費用	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△5,059,141	70,465,225	0	0	0	65,406,084
法人税、住民税及び事業税	21,500,000	0	0	0	0	21,500,000
当期一般正味財産増減額	△26,559,141	70,465,225	0	0	0	43,906,084
一般正味財産期首残高	34,708,440	0	0	0	0	34,708,440
一般正味財産期末残高	8,149,299	70,465,225	0	0	0	78,614,524
II 指定正味財産増減の部						
当期指定正味財産増減額	△5,241,600	634,186,083	0	0	0	628,944,483
指定正味財産期首残高	67,317,000	0	0	0	0	67,317,000
指定正味財産期末残高	62,075,400	634,186,083	0	0	0	696,261,483
III 正味財産期末残高						
	70,224,699	704,651,308	0	0	0	774,876,007

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位:円)

科目	公益事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部				
経常増減の部				
経常収益	985,727,447	69,968,687	254,598	1,055,950,732
経常費用	918,259,804	51,360,508	37,642,449	1,007,262,761
当期経常増減額	67,467,643	18,608,179	△37,387,851	48,687,971
経常外増減の部				
経常外収益	0	0	8,236,500	8,236,500
経常外費用	0	0	454,095	454,095
当期経常外増減額	0	0	7,782,405	7,782,405
他会計振替額	8,307,135	△8,307,135	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	75,774,778	10,301,044	△29,605,446	56,470,376
法人税、住民税及び事業税	0	26,000,000	0	26,000,000
法人税等還付税額	0	△5,528,300	0	△5,528,300
当期一般正味財産増減額	75,774,778	△10,170,656	△29,605,446	35,998,676
一般正味財産期首残高	64,452,885	1,848,490	12,313,149	78,614,524
一般正味財産期末残高	140,227,663	△8,322,166	△17,292,297	114,613,200
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	583,388,034	0	<b	

公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構 JADA

〒115-0056
東京都北区西が丘3-15-1 国立スポーツ科学センター内
Tel: 03 5963-8030(代表)
Fax: 03 5963-8031

各グループ連絡先
03 3907-3712 (テスティング)
03 5963-3383 (スポーツファーマシスト)
03 3907-3745 (ADAMS専用問い合わせダイヤル)
03 3906-3031 (居場所情報更新ダイヤル)

Web:
www.playtruejapan.org
FaceBook:
<https://www.facebook.com/pages/Japan-Anti-Doping-Agency/122700971113230>

日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)
3-15-1 Nishigaoaka Kita-ku, Tokyo
115-0056 JAPAN
Tel: +81 3 5963-8030
Fax: +81 3 5963-8031
Web: www.playtruejapan.org
FaceBook: <https://www.facebook.com/pages/Japan-Anti-Doping-Agency/122700971113230>